

アルカリ土壌改良材 pH バランス A

●はじめに

近年、セメント系固化剤による改良土の再利用が普及し、盛土法面が強アルカリ性を呈していることが多くなっています。セメント改良土の場合、厚層吹き付けなどの緑化工を実施しても、生育不良や衰退するケースが多く見られます。

このため、セメント系固化剤による改良土に対する改良材や緑化手法が望まれています。

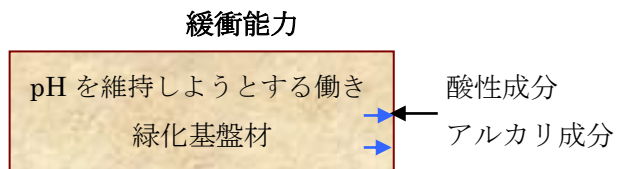
pH バランス Aはこのような強アルカリ性土壌を緑化するために開発された pH 矯正資材です。

● <緩衝能力>+<pH バランス A>による pH 維持機能

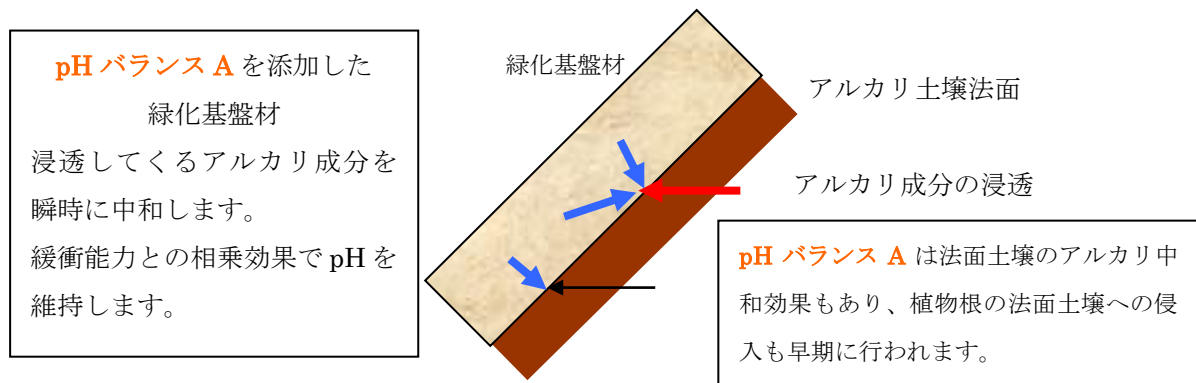
pH バランス Aは緑化基盤材の持つ緩衝能力を最大限利用し、アルカリの影響を最小限に抑制し、健全な緑化基盤層を構築します。

緩衝能力とは pH の変動要因（酸性雨など）に対して、pH を維持しようとする機能で、有機物を多く含む緑化基盤材は高い緩衝能力を持つ資材です。

ところが、セメント固化材や石灰などが混合された土壌の場合、緑化基盤材が持つ緩衝能力を超え、やがてはアルカリ性に移行してしまうため植生が劣化してしまいます。



pH バランス Aを緑化基盤材に混合すると、浸透してくるアルカリ成分を化学的に中和してしまいうため、緑化基盤材の持つ緩衝能力と相乗効果を発揮し pH 値の変動を抑制します。



● pH バランス A の特徴

- ① 取り扱いが簡単 : 湿粉体で出荷されるので現場でホコリがたたず、混合しやすい。
- ② 高い安全性 : 食品添加物や有機酸（クエン酸やお酢などの総称）から構成された酸性物質なので安全です。
- ③ 魚毒性ゼロ : 魚毒性試験は生存率 100% です。表層水が流れる法面に最適な資材です。
- ④ 高い pH 維持機能 : アルカリ性を中和後、50 時間程度で pH が安定し持続します。
- ⑤ 電気伝導度を上げない : 一般的な酸性物質で中和すると塩類が生成され電気伝導度が基準値を超えてしまい緑化に不適当な基盤になってしまいます。

● **使用方法**

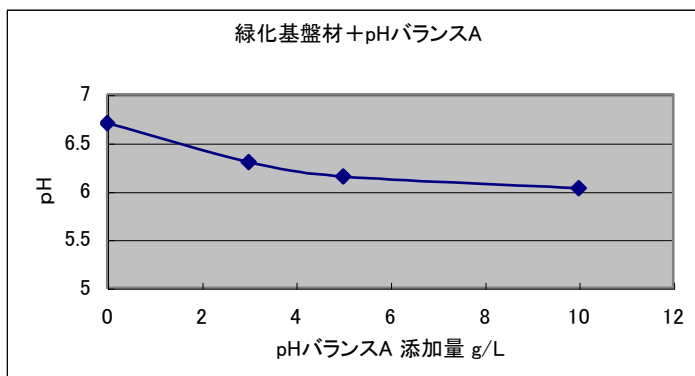
pH バランス A は緑化基盤材に混合し、吹き付けてください。

種子などの混合もできます。

次のグラフは一般的な緑化基盤材に **pH バランス A** を添加した時の pH 曲線です。

pH6.7 の基盤材に 10 g/L 添加しても pH は 6 程度に維持され、種子などへの影響はありません。

しかし、酸性成分の潜在力（ポテンシャル）は維持されていますから、アルカリ成分の矯正効果を発揮します。



● **使用量** (緑化対象法面の pH を測定します)

pH バランス A 使用量の目安

土壌 pH	緑化基盤材 1 Lあたり	法面面積 1 m ² あたり
pH7.5～8.5 程度の場合	3 g	0.39 Kg
pH8.5～9.0 程度の場合	5g	0.65Kg
pH9.0～9.5 程度の場合	10g	1.30Kg
pH9.5～10.0 程度の場合	15g	1.95Kg
pH10.0 以上	20g	2.60Kg

注) 緑化基盤材の緩衝能力を発揮するために 5 c m以上の厚層吹き付けで緑化してください。
7 c m以上の吹き付け厚さが理想的です。

- **使用上の注意** : 水に溶けると強酸性になりますから、目や粘膜に付着した場合は多量の水で洗ってください。(硫酸や塩酸などのような過激な反応性は全くありません)

- **荷姿** : 1 0 kg/袋



株式会社カクタニ

〒810-0029

福岡市中央区平尾浄水町7番7-301号

TEL 092-523-3681 FAX 092-523-3688